

静岡県花き振興計画

計画期間:令和8年～10年度
(2026年度～2028年度)

令和8年6月
静岡県

目 次

1 位置づけ	
(1) 計画策定の趣旨 1
(2) 計画の位置づけ 1
(3) 計画期間 1
2 目標	
(1) 基本目標 2
(2) 計画のポイント 2
3 施策	
施策1 花き生産の振興 5
施策2 花き利用の拡大 9
4 主要品目別の振興計画	
(1) キク12
(2) ガーベラ14
(3) バラ15
(4) 切枝17
(5) 鉢物類・花壇用苗もの類18
5 推進方法19

参考

1 現状のデータ20
----------	---------

1 位置づけ

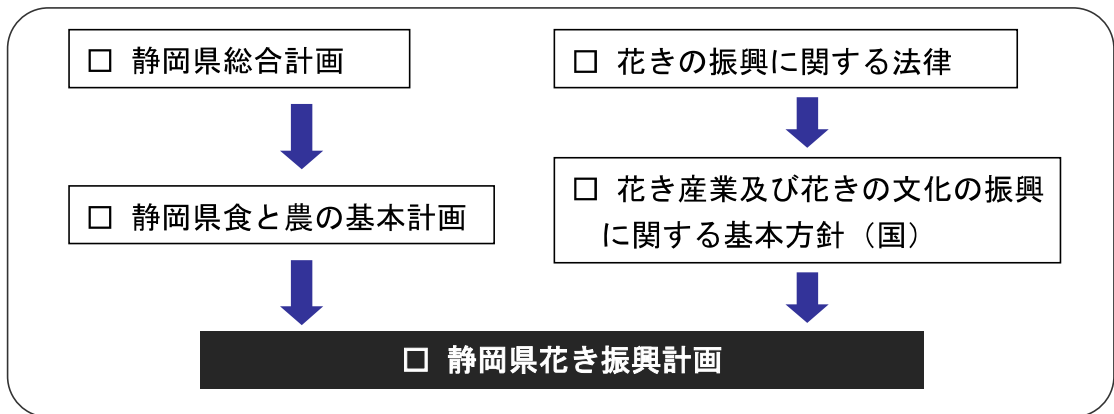
(1) 計画策定の趣旨

静岡県は全国屈指の多彩で高品質な花の生産県であり、一年を通して花を楽しむ名所や花に関わる人材も豊富である。こうした潜在的なリソース（資源）を最大限に活用し、新たな花の需要の創出や花き生産の振興を図り、暮らしの様々な場面で花と緑があふれる静岡県を実現する。

今回、県民一人ひとりの幸福を重視する「ウェルビーイング」の視点を取り入れた、県政運営の指針である「静岡県総合計画」、および本県農業・農村行政の最上位の指針である「静岡県食と農の基本計画」が令和8年3月に策定されたことを受け、本県の花き産業のさらなる発展と、花と緑にあふれる豊かな県づくりを推進するため、新たに「静岡県花き振興計画」（令和8年度～10年度）を策定する。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、花き産業と花きの文化の振興を目的とした「花きの振興に関する法律」（平成26年法律第102号）第4条に基づく計画であり、また、「静岡県食と農の基本計画」と整合性ある計画として定める。



(3) 計画期間

- 計画期間：令和8年度（2026年度）～令和10年度（2028年度）の3年間
※ 静岡県総合計画および静岡県食と農の基本計画の終了時期に合わせる

2 目標

(1) 基本目標

花と緑があふれる県づくりの基本目標を次の4項目とし、目標の達成を目指し振興計画において施策を実行する。また、主要品目別に産出額、生産量、作付面積の目標（別表）を設定し、花きの生産振興を図る。

目標名	基準値	目標値	目標値の説明
成果指標			
花き産出額	166億円 (令和6年)	180億円 (令和10年)	県産花きの産出額の増加を目指す。
花き県内流通額	112億円 (令和5年)	120億円 (令和10年)	県内花き市場及びファーマーズマーケットの花き流通額の増加を目指す。
活動指標			
先端技術や新品目の実証試験	—	毎年度2地区	高温対策技術や新品目等の導入により生産性向上を図る。
園芸講座受講数		毎年度2,600人	地区や学校等における園芸活動や花育活動の推進を目指す。

(2) 計画のポイント

- 担い手確保や経営安定にむけて、市場ニーズに応じた省力品目導入の強化
- 高温対策や生産コスト増加への対策として、生産性向上や省エネ等につながる先端技術を導入し、今後も持続する花き経営の確立を推進
- 業務需要の減少や消費特性、物流環境が変化する中、市場ニーズに応じた流通販売の強化
- 花き消費喚起を図るため、花に親しむ機会の創出や若年層への花き消費提案の実施

(別表)

品目別生産目標

品目	項目	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年 (a)	令和10年 (目標年) (b)	伸び率 (b/a)
キク	産出額 (億円)	23	24	27	26	24	26.4	110
	生産量 (千本)	44,000	44,100	43,400	41,300	38,100	40,600	107
	作付面積 (ha)	152	151	149	147	141	140	99
ガーベラ	産出額 (億円)	14	18	20	21	18	22.5	125
	生産量 (千本)	52,900	52,300	51,700	49,400	45,800	51,000	111
	作付面積 (ha)	24	24	24	23	22	23	104
バラ	産出額 (億円)	14	15	15	15	13	15.8	121
	生産量 (千本)	19,200	19,200	17,900	17,300	15,800	17,900	113
	作付面積 (ha)	29	29	29	28	26	26	100
切枝	産出額 (億円)	16	13	13	15	14	17.6	125
	生産量 (千本)	31,200	31,500	32,700	33,300	31,300	35,100	112
	作付面積 (ha)	421	424	425	426	428	439	103
鉢物類・ 花壇用苗 もの類	産出額 (億円)	66	73	70	73	71	77.4	109
	生産量 (千鉢)	29,500	29,400	28,500	27,800	24,900	26,700	107
	作付面積 (ha)	97	98	97	97	93	92	98
花き 合計	産出額 (億円)	153	168	174	179	166	180	109
	作付面積 (ha)	834	832	828	824	806	800	99

生産農業所得統計、花き生産出荷統計、花木等生産状況調査（農水省）

静岡県花き振興計画

<現状と課題>

<目標(R10)>

<p>○担い手 ・花き栽培面積 840 ha (R元) → 806 ha (R6) <課題> ・担い手不足による生産基盤の弱体化</p>	<p>○生産 ・農林技術研究所での新品種育成、県内産地への許諾 マナーガレット類22品種、スプレーギク1品種 (R7) ・遮熱剤等、新たな技術の実証試験 2技術 (R7) <課題> ・夏季の高温による収量・品質の低下 ・生産資材や燃油等の高騰に伴う生産コストの増加</p>	<p>○流通・販売 ・産出額全国4位 (R6) 全国有数の花き生産県 ・静岡県の花き産出額 164億円 (R元) → 166億円 (R6) ・全国的な生産量減による単価の上昇 切花 72円 (R元) → 90円 (R7) * 都中央卸売市場 鉢物 624円 (R元) → 755円 (R7) <課題> ・生産資材や燃油等の高騰に伴う流通コストの増加</p>	<p>○需要 ・葬儀などの業務需要は回復せず ・家庭の花き消費は緩やかに減少傾向 ・浜名湖花博2024の開催 来場者数 1,006,586人 (R6) ・しずおか花のアドバイザー登録 108人 (R7) ・SNSフォロコンテナ応募数 219点 (R7) <課題> ・業務需要の減少や生活様式の変化に伴う新たな花き需要への対応 ・日常生活における花を飾る・贈る機会の減少 ・切り花、園芸用品の年間購入額の減少 ・若年層における切花購入額の伸び悩み ・花きに関する情報提供と多様な発信方法への対応</p>
--	--	--	--

<施策の方向性>

<p>施策1 花き生産の振興 ①経営体の支援による産地体制の強化 ・認定農業者、法人等の担い手への活動支援 ・経営安定に向けた補完的花き品目の導入支援 ・自然災害や燃油高騰等のリスクに対応した各種制度の活用支援 ②安定した花き生産の確立に向けた生産技術の開発と普及 ・気候変動に対応した栽培技術及び品種の開発と普及推進 ・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な生産活動の推進 ・持続性のある花き生産を進めるための認証取得支援 ・生産性向上につながる環境制御技術等の活用推進 ・日持ち保証販売に対応した出荷技術の確立と普及 ③時代に対応した流通体制の検討と販路の拡大・強化 ・様々な販売形態に対応した流通体制構築の検討 ・県内の鉢物生産者による商談会開催支援 ・花き展覧会の開催、参加支援 ・2027年国際園芸博覧会への参加を契機とした県産花きのPR</p>	<p>施策2 花き利用の拡大 ①花を取り入れた生活の提案 ・県産花きの楽しみ方を伝える体験会の開催 ・SNSを活用した花のコンテストの開催 ・記念日に花を贈る機運の醸成 ・人々が集う場所で花や緑の利用の促進 ②花育・園芸講座等の推進 ・アドバイザーの活動支援による花育や園芸講座の実施 ・消費者の理解醸成 ③情報の集積・発信 ・ウェブサイトやSNSによる発信の強化 ・花き関係団体と連携した花と緑にあふれたまちづくりの推進</p>
---	--

<p><成果指標> ○花き産出額 166億円 → 180億円 (令和6年)</p>	<p>○花き県内流通額 112億円 → 120億円 (令和5年)</p>	<p><活動指標> ○先端技術導入や新品目の実証に取り組む地区数 毎年度2地区 ○園芸講座等受講者数 毎年度2,600人</p>
---	--	--

3 施策

施策 1 花き生産の振興

花きの生産者の経営能力を高めることにより、産地体制の強化を図る。また、新品目、新品種や最新技術の導入により、花きの生産振興を図る。

1 経営体支援による産地体制の強化

(1) 認定農業者、法人等の担い手への活動支援

- 生産者の経営発展を支援するため、技術及び経営などの個々の経営課題の解決に向けて専門家を活用した伴走型支援を行い、経営を改善し、個別経営及び産地体制の強化を図る。
- 新規就農や企業の参入を支援するとともに、担い手育成に関わる農協等関係機関との連携強化により、担い手の確保・育成を図る。
 - ・ 県の担い手対策と連動した新規就農の受入れ体制の整備と企業参入の促進
 - ・ 後継者や新規就農者に向けた花き生産に必要な基本的な技術や経営管理能力の習得等資質向上の支援
- 温室、ハウスなどの生産施設や効率的な育苗、集出荷・調整施設など生産基盤を整備することにより、経営の規模拡大を推進し、産地体制の強化を図る。
 - ・ 整備計画の策定支援と各種補助事業・資金の活用促進
 - ・ 地域計画との連携による離農者の未利用ハウスの情報共有や既存ハウスの機能強化による有効活用に向けた支援

(2) 経営安定に向けた補完的花き品目導入の支援

- 生産者の高齢化に伴い、需要の高い省力栽培品目等を導入し、継続可能な生産体制の構築を図る。
 - ・ 省力栽培が可能で、市場ニーズの高い品目（枝物・草花）等の導入支援
 - ・ 省力栽培が可能な品目等の導入による耕作放棄地の解消と遊休ハウスの活用促進

(3) 自然災害や燃油高騰等のリスクに対応した各種制度の活用支援

- 自然災害や市場価格低下等による収入減少のリスクに備えて、災害対策および各種セーフティーネットへの加入を推進する。
 - ・ 自然災害等による収入減少を補う収入保険や農業用施設の被害損失を補填する農業共済等の加入促進や利用拡大の取組支援
 - ・ 台風や高温等の自然災害のリスクに対して、事業実施計画（BCP）の策定の推進

- 燃油高騰のリスクに対して、各種セーフティーネットの加入促進や利用拡大の取組を進める。
 - ・ 燃料価格の上昇に応じて補填金が交付される施設園芸等燃料価格高騰対策（セーフティーネット対策）への加入推進

2 安定した花き生産の確立に向けた生産技術の開発と普及

(1) 気候変動に対応した栽培技術及び品種の開発と普及推進

- 温暖化等の気候変動による生理障害や収量低下の回避・軽減に向けて、高温対策技術の導入を支援する。
 - ・ 補助事業等の活用を含めた高温対策に資する施設および機械等の導入支援
 - ・ 遮熱・遮光資材や外気導入、ヒートポンプ等の高温対策技術の実証試験による現場への導入推進
〔具体的な方策は「主要品目別の振興計画」の項を参照〕
- 静岡県農林技術研究所において気候変動に対応した新品種の育成を進めるとともに、県内花き生産者が行う育種に関する取組を支援する。
 - ・ 農林技術研究所におけるキク、マーガレット等の新品種の開発
 - ・ 生産者が行う育種や育成品種の維持・増殖のための技術情報の提供

(2) 脱炭素等の環境に配慮した持続可能な生産活動推進

- 脱炭素社会の実現に向けて、燃油価格高騰の影響の少ないヒートポンプの導入や変温管理技術の開発等の省エネルギー低コスト生産の積極的な活用を図る。
- 環境への負荷を低減し持続性のある花き生産を進めるため、みどり認定や花き産業総合認証（MPS）、農業生産工程管理（GAP）などの認証を受ける生産者の取組を支援する。
 - ・ 温暖化により増加もしくは新たに発生する病害虫に対し、効果的な防除技術の開発と導入推進
 - ・ UV-B照射や病害虫抵抗性品種の導入などの農薬に頼らない病害虫防除技術の開発と導入推進
 - ・ 日持ち保証販売に対応した生産現場における衛生管理や出荷技術の確立と普及
- 土壌や作物に応じた適正な施肥方法や総合的病害虫・雑草管理（IPM）の導入など、環境負荷を低減する施肥方法や病害虫防除体系の普及を図る。
〔具体的な方策は「主要品目別の振興計画」の項を参照〕

(3) 生産性向上につながる環境制御技術等の活用推進

- 栽培管理労力を軽減するための統合環境制御システムや栽培環境の「見える化」を進めるための環境モニタリング装置等スマート農業技術の導入を進める。
- 低コスト耐候性ハウスの導入や育苗・出荷調整の共同化などを推進し、生産

コストの削減を図る。

- デジタル技術やデータの活用による農業DX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、開花調節技術等の導入による効率的な生産を図る。
- 高品質、多収量で省力化につながる生産技術と計画出荷の基礎となる周年・安定生産技術を確立し普及を図る。

3 時代に対応した流通体制の検討と販路の拡大・強化

(1) 様々な販売形態に対応した流通体制の構築の検討

- 日持ち性向上技術について、関係団体と連携して利用拡大を図る。
 - ・ 花き関係団体との連携による日持ち性向上技術の普及促進
- 物流の働き方改革の進展による運転手不足により物流が課題になっている花き生産において、効率的な輸送方法など、集出荷場の物流システムを検討する。
 - ・ 輸送に関する産地間の連携強化による集荷体制の整備や集荷施設の集約支援など物流の改善・効率化の検討
 - ・ ICTを活用した流通情報システムの導入推進や出荷規格の再設定等による効率化の検討
- 販売や流通形態の多様化に対応した産地ブランド化に向けた商品提案力を強化する。
 - ・ 消費者ニーズを把握するために関係機関と連携した情報共有と生産者による新たなニーズに対応した商品開発の取組支援

(2) 県内の鉢物生産者による商談会開催に向けた運営支援

- 県内の鉢物・花壇苗生産者による商談会の開催を支援し、特色のある本県産花きの販路拡大を進める。
 - ・ 県内の鉢物、花壇苗生産者有志による自主的な商談会の開催に向けたノウハウの提供や環境を整備し、販路拡大活動を支援

(3) 花の展覧会の開催、参加支援

- 花の展覧会の開催及び生産者の参加を支援し、主要市場等への情報提供やメディア等での情報発信により、特色のある本県産花きの消費拡大を進める。
 - ・ 静岡県花の展覧会の開催支援
 - ・ 関東東海花の展覧会等の花きイベントへの生産者の参加を支援

(4) 2027年国際園芸博覧会への参加を契機とした県産花きのPR

- 2027年国際園芸博覧会に出展し、国内外に県産花きの魅力を発信し、認知度向上を図る。
 - ・ 2027年国際園芸博覧会への出展や生産者団体の参加支援を通じた県産花きのPR

- ・ 国際園芸博覧会の開催を機に、国内外からの来場者に対し本県産花きの多様な魅力の発進による新たな需要喚起の掘り起こし
- ・ 本県産花きの新たな使い方の提案等による、装飾・空間演出やイベント等業務需要拡大の取組支援

施策 2 花き利用の拡大

花を取り入れた生活の提案や、花育・園芸講座の推進、花緑に関する情報発信等を行うことで、花と緑にあふれた地域づくりを進める。

1 花を取り入れた生活の提案

(1) 県産花きの楽しみ方を伝える体験会の開催

- 日持ちがよい花や手入れが簡便な花を使った楽しみ方の提案
 - ・ 県産花きの体験会の実施

(2) SNSを活用した花のコンテストの開催

- 暮らしの様々な場所の花緑に関わるコンクールへの参加を推奨し、優良な事例を広く紹介することにより花の活用を推進する。
 - ・ コンクールの優良事例を紹介し、花緑の活用を推進
 - ・ インスタグラム等SNSを活用したフォトコンテストの実施
 - ・ 全国花のまちづくりコンクールへの参加推奨

(3) 記念日に花を贈る意識の高揚

- 生産者団体や流通・小売関係者が連携して実施する「フラワーバレンタイン」、「いい夫婦の日」などの記念日に花を贈るキャンペーンを支援し、花き贈答文化の定着を図る。
 - ・ 県内の花き関係団体と連携した消費拡大キャンペーンの取組の推進
 - ・ インスタグラム等SNSを活用したフォトコンテストの実施（再掲）

(4) 人々が集う場所で花や緑の利用の促進

- 商店街や学校、公共施設、飲食店、病院、福祉施設など人々が集う様々な場所で、花や緑の利用を進める。
 - ・ 花に関する栽培や花壇づくり、装飾などの技術や学術的な知識を持った「しずおか花のアドバイザー」による花緑出張サービスの実施
 - ・ オープンガーデンを地域に広く普及するため、各地で組織されているオープンガーデン関係団体の活動を県ホームページで紹介

2 花育・園芸講座等の推進

(1) アドバイザーの活動支援による花育や園芸講座の実施

- アドバイザーの活動支援による地域の担い手育成
 - ・ 「しずおか花のアドバイザー」の活動支援を通じて、地域で花・緑の活動をする担い手を育成
- 幼少期から花に親しみ育てる機会を増やすための花育活動を推進する。

- ・ フラワー・ブラボー・コンクールや全国花のまちづくりコンクールへの参加支援を通じた花育や地域まちづくりの取組推進
- ・ 「しずおか花のアドバイザー」による花緑出張サービスの実施（再掲）

(2) 消費者の理解醸成

- 生産者と消費者の相互理解を深める交流機会を確保し、地産地消意識の醸成とともに、本県花き産業に対する理解と関心の向上を図る。

3 情報の集積・発信

(1) ウェブサイトやSNSによる発信の強化

- 花や緑が美しい名所や施設、花の産地、花に関わる文化・歴史など、花と緑の情報を収集・集積する。
- 自宅での花緑の活用方法などについて、花を楽しめる情報をSNSを通じて発信し、日常生活における花文化の定着を図る。
 - ・ 本県産花きの特徴や技術、使い方などを、県ホームページ、Instagram等SNSでの紹介

(2) 2027年国際園芸博覧会への参加を契機とした花の魅力のPR

- 2027年国際園芸博覧会に出展し、国内外に県産花きの魅力を発信し、認知度向上を図る。
 - ・ 2027年国際園芸博覧会への出展や生産者団体の参加支援を契機とした県産花きのPR（再掲）
 - ・ 国際園芸博覧会で醸成されたウェルビーイングと「花のある暮らし」の定着させるため、日常的に自分や家族のために花を買う「ご褒美消費」や「リビングフラワー」の文化の定着の推進
 - ・ 国際園芸博覧会の開催を機に、国内外からの来場者に対し本県産花きの多様な魅力の発信による新たな需要喚起の掘り起こし（再掲）

(3) 花き関係団体と連携した花と緑にあふれたまちづくりの推進

- 県内の花きの生産、流通、販売、文化に関する団体で構成する「しずおか花の協議会」で、本県花きの生産・流通・消費等に関する実施方針を定め、花と緑にあふれたまちづくりに取り組む。
- 地域においては、市町、生産者団体、生花・園芸店、オープンガーデン開設者、花の会及び県農林事務所などで構成する「地域しずおか花の協議会」の中で、地域の実情に即した花と緑にあふれたまちづくりを進める。
- 花と緑にあふれる本県の魅力を県ホームページやSNS等でPRし、情報発信を行う。
 - ・ 県ホームページやSNS等で、各地域しずおか花の協議会の活動や県内の花

の名所等を情報発信

- フラワー・ブラボー・コンクールや全国花のまちづくりコンクールへの参加支援を通じた花育や地域まちづくりの取組推進（再掲）

4 主要品目別の振興計画

(1) キク

ア 現状

輸入の増大、原油高騰の影響などにより、生産量、産出額ともに減少傾向にある。

令和6年の本県のキク作付面積は141ha、生産量3,810万本、産出額24億円で全国第6位の生産県である。主産地は、浜松市、湖西市である。

本県の輪ギク、スプレーギクは、愛知県などと同様に周年生産・出荷している。他の主要県の年間作付回数が輪ギクで3作、スプレーギクで3.5作程度であるのに対し、本県はともに2作が主流である。主要県の輪ギク色別作付割合は、白60%、黄30%、赤10%であるが、本県は白30%、黄60%、赤10%と黄色の作付出荷割合が高く、黄色の輪ギク産地として高い評価を受けている。

【データ】

年度	R4	R5	R6		R10 目標	R10/ R6
産出額(億円)	27	26	24	➡	26.4	110%
作付面積(ha)	149	147	141		140	99%
10a当たり出荷量(千本)	29	28	27		29.0	107%

イ 課題と振興方策

現状と課題	振興方策
① 彼岸や盆、年末等の物日出荷を主体とする生産であり、計画的に周年安定出荷のできる産地体制を確立する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 遊休ハウスの活用や低コスト耐候性ハウスの導入により産地規模の維持発展を図るとともに、周年安定生産体制を整備する。 収穫期集中化技術の開発や作期短縮可能な系統・品種の育成により年間3作を図り、収益の安定を図る。 輪ギクと他品目を組合わせた経営の推進により、収益性の向上による経営の安定化を図る。

<p>② 今後、家族労働力の高齢化に伴う規模の縮小等により生産の減少が予想されることから、労働力の確保対策、省力化技術の普及等が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芽摘み作業が少ない省力的な品種の開発・導入、直挿しや無摘心栽培技術の普及による省力化を推進する。 ・ 収穫作業の機械化や選別作業の出荷調整施設の整備を支援し、集出荷作業を軽減することで、労働力の不足を解消する。 ・ リタイヤした生産者の生産基盤を地域で引継ぎ、産地規模の維持を図る。
<p>③ 夏季の異常高温等による気候変動による収量、切り花品質の低下が顕著となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐暑性を有するキク新品種の導入を支援する。 ・ 高温障害を軽減、回避する技術の開発と普及を推進する。
<p>④ 重油や生産資材価格の高騰により、生産コストが増大しており、単収の向上等による所得の確保が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場占有期間短縮による年間作付数の増加や秀品率向上により単位面積当たりの収益を向上し、所得の確保を図る。 ・ 低温開花性や低温伸長性を有する品種の開発・導入を支援する。 ・ 変温管理や炭酸ガス施用などの高品質安定生産技術の確立を図る。 ・ 環境モニタリングや統合環境制御システム等スマート農業技術を導入し、安定出荷や省力化を推進する。
<p>⑤ 農薬・肥料の使用等について、環境に配慮した生産の取組を進める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ I P M等に基づいた病害虫管理、土壌分析等に基づく施肥管理により、環境負荷の少ない生産を実践する。

(2) ガーベラ

ア 現状

景気の後退による価格の低迷や原油高騰などの影響により、生産量、産出額ともに減少傾向である。

令和6年の本県のガーベラ作付面積は22ha、生産量4,580万本、産出額18億円で全国第1位の生産県である。国内のガーベラ生産量に対する静岡県産シェアが上昇しており、現在国内の39%を占めている。県内の主産地は、浜松市、牧之原市である。

近年は施設内の環境計測装置や高度環境制御装置の導入が普及してきている。

【データ】

年度	R4	R5	R6	R10 目標	R10/R6
産出額(億円)	20	21	18	22.5	125%
作付面積(ha)	24	23	22	23	105%
10a当たり出荷量(千本)	219	213	208	222	107%

イ 課題と振興方策

現状と課題	振興方策
① 生産コストが増大しており、コスト削減技術の導入が必要である。また、夏季の高温の影響により、需要期の10～11月の収穫量の減少がみられるため、高温対策技術の確立が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> ヒートポンプを活用した夜間冷房、遮光・遮熱資材等を活用して、高温障害対策を実施し、生産性の向上を図る。 環境制御装置を活用した施設内環境の最適化により、生産性向上を図る。
② 土壌病害の発生が問題になっており、土壌病害対策技術の導入が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 防除効果が高く環境への負荷が少ない土壌消毒技術の確立を図る。 養液栽培・隔離栽培技術の導入を支援する。
③ 日持ち性向上に向けた栽培技術の確立が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 管理技術のマニュアル化やチェックリストによる管理技術の向上を図る。
④ 市場占有率の高い首都圏マーケットに対する販売促進、信頼性の更なる向上が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 出荷予測数量等細かい情報提供や首都圏量販店等における販売促進を図る。 マーケットインの視点を入れた品種を選定し、販売単価の向上を図る。
⑤ 農薬・肥料の使用等について、環境に配慮した生産の取組を進める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> I P M等に基づいた病害虫管理、養液分析等に基づく適正な施肥管理により、環境負荷の少ない生産を実践する。 養液栽培の排液や培地を適切に処理し、環境に配慮した生産を実践する。

(3) バラ

ア 現状

生産者の減少と販売単価の低迷により作付面積や産出額が減少傾向にある。また、原油高騰などによる生産コストの上昇のため、収益性も悪化している。

令和6年の本県のバラ作付面積は26ha、生産量は1,580万本、産出額は13億円で全国第2位の生産県である。主産地は、掛川市、静岡市、島田市である。

現在、県下一体で生産・販売に取り組んでいるが、価格の低迷により輸入花きや他県産地との産地間競争が激しさを増している。他産地と比較してスプレー系品種の割合が高く、周年出荷産地としての評価が高い。また、施設内の環境計測装置や高度環境制御装置の導入が普及してきている。

【データ】

年度	R4	R5	R6		R10 目標	R10/R6
産出額(億円)	15	15	13	➡	15.8	121%
作付面積(ha)	29	28	26		26	100%
10a当たり出荷量(千本)	63	62	60		69	114%

イ 課題と振興方策

現状と課題	振興方策
① 重油や生産資材価格の高騰により、生産コストが増大しており、増収技術やコスト削減技術の導入が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT技術を活用した環境モニタリングや統合環境制御システム等スマート農業技術の導入を支援し、安定出荷や省力化を推進する。 ・ ヒートポンプの周年利用及び冬季補光、炭酸ガス施用等の技術導入を推進し、生産性の向上を図る。 ・ 採光性及び保温性の高い被覆資材の導入により、生産性の向上を図る。 ・ 低コスト耐候性ハウスの導入や遊休ハウスの活用により、生産コストの削減や省力化を図る。

<p>② 輸入花きや他産地との競争の激化、景気後退による価格の低迷等から、ブランド化の確立による産地競争力の強化が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナル品種の育成・ブランド化を支援する。 ・ バケツ輸送、前処理剤の利用等の鮮度保持技術を導入することにより、日持ち保証に対応できる生産・流通システムを確立し、産地競争力の強化を図る。 ・ 首都圏での販売促進活動を推進することにより、産地ブランドの確立を図る。
<p>③ 農薬・肥料の使用等について、環境に配慮した生産の取組を進める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日射量や排水量に応じた給液技術、養液分析等に基づいた施肥管理により、環境に負荷の少ない生産に取り組む。 ・ 養液栽培の排水や培地を適切に処理し、環境に配慮した生産を実践する。 ・ I P M等に基づいた病害虫管理により、環境負荷の少ない生産を実践する。 ・ ヒートポンプや送風機を活用し、施設内の温湿度環境を適切に制御することで、灰色かび病の発生を抑制する対策技術の確立を図る。 ・ 農薬防除と天敵利用に加え、UV-B照射等の物理的防除技術を組み合わせた総合的な防除体系を構築し、ハダニ類の安定的な防除を図る。
<p>④ 高温障害対策および秋季の収量低下等の対策への取り組みが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒートポンプを活用した夜間冷房、遮光・遮熱資材、ミスト噴霧等を活用した高温障害対策を実施し、植物への影響を抑える。

(4) 切枝

ア 現状

県西部地域を中心に、ユーカリやコデマリ、シキミ等多品目が栽培されている。省力栽培が可能であることから、作付面積が増加している。

ユーカリはアレンジメントなどの需要の高まりにより、販売単価は安定しており、産出額もほぼ一定で推移している。近年は、茶園や耕作放棄地からの転換により、枝物を新規品目として導入する産地がみられる。また、定年退職後に、切枝栽培を開始する生産者も見られる。

【データ】

年度	R4	R5	R6	R10 目標	R10/R6
産出額(億円)	13	15	14	18	125%
作付面積(ha)	425	426	428	439	102%
10a当たり出荷量(千本)	7,694	7,817	7,313	8,000	109%

イ 課題と振興方策

現状と課題	振興方策
①栽培に適した品目を選定し、耕作放棄地や茶園等からの転換に導入していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 生産者組織の活動の中で、栽培実証を行い、生産導入品目を選定する。 既存の花き生産者の複合品目としての導入を図る。
②栽培経験の少ない生産者でも生産が行なえるよう技術的な支援を行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 有望品目について栽培管理技術のマニュアルを作成し、産地づくりを図る。 種苗増殖技術及び仕立て方法を確立するとともに、産地内での技術習得を行う体制づくりを図る。
③切枝は用途や利用シーンが多様で、品目ごとに需要期・規格・単価が異なることから、販売先のニーズを踏まえた出荷体制や販促の強化が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 市場・実需者のニーズ把握に基づく品目構成・出荷計画の策定を推進する。 産地PRを支援し、需要拡大と取引の安定化を図る。

(5) 鉢物・花壇用苗もの類

ア 現状

西部、中遠、東部地域を中心に産地形成され、同一地域内でも経営体ごとに栽培品目が異なっており、多様な品目が生産されている。東部花き流通センターと西部鉢物集出荷センター（プランツサイト浜名湖）を核とした集出荷施設から首都圏や中部・関西地域に出荷している。

単価が高騰した品目もあり、全体産出額は横ばいであるが、資材高騰などの影響により、収益性の悪化が懸念される。

物流においては、出荷箱を平積みできる切花に比べ輸送効率が低く、働き方改革による運転手不足が深刻化する中で、輸送コストや輸送体制の課題が一層顕著になっている。

【データ】

年度	R4	R5	R6	R10 目標	R10/R6
産出額(億円)	70	73	71	77	109%
作付面積(ha)	97	97	93	92	98%
10aあたり出荷量(千鉢)	29,291	28,808	26,631	29,000	109%

イ 課題と振興方策

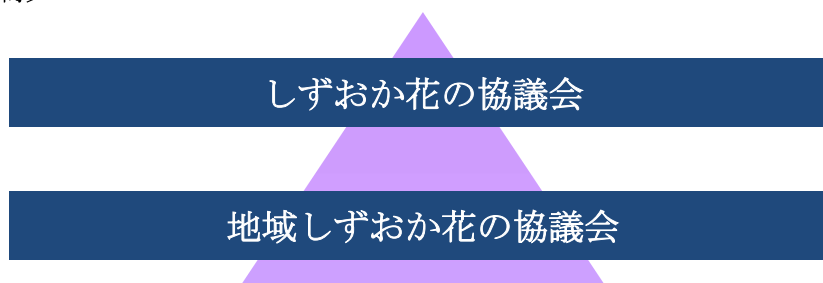
現状と課題	振興方策
①資材高騰による生産コスト増加や夏季高温による歩留まり低下が問題となっており、コスト削減、生産性向上のための品種・技術の導入が必要となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 低コスト・省力化栽培技術の開発、推進を図る。 耐暑性を有する品種の開発と導入拡大を進めるとともに、遮熱資材の活用等高温対策技術の普及を推進する。
②多様な品目が生産されており、産地一体となった商材PRが困難かつ生産コスト増加が問題となる中で、販路の拡大や商品提案が必要となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 県内の鉢物・花壇苗生産者による商談会の開催を支援し、新たな販路拡大の構築を支援する。 新たなニーズに対応した商品開発の取組を支援する。
③運転手不足など物流の課題が深刻化しており、輸送コスト抑制、輸送の安定確保が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> 輸送コスト高騰や輸送確保の見通しを把握・共有し、関係者間の連携強化を推進する。 産地間の連携強化による集荷体制の整備や集荷施設の集約を支援し、物流の改善・効率化を図る。

5 推進方法

花と緑があふれる地域づくりを県民参加の活動とするため、県内花き関係機関や団体、生花・園芸店及び県などで構成する「しずおか花の協議会」を設置し、情報の共有化、連携強化を進め、新たな需要の創出や消費の拡大に向けた取組を行う。

地域（賀茂、東部、富士、中部、志太榛原、中遠、西部の7農林事務所単位）においては、市町や生産者団体、オープンガーデン開設者、花の会及び県農林事務所などで構成する「地域しずおか花の協議会」を設置し、花育講座、オープンガーデン開設指導、花き生産振興など、地域に実情に即した活動を進める。

〔推進体制〕



□ 県の推進体制

名 称	しずおか花の協議会
構 成 員	県（事務局） 生産者団体 花き市場 生花・園芸店 華道連盟 花の会連合会 等
事業内容	・ 花と緑にあふれた地域づくりの進め方の検討 ・ 花と緑にあふれた地域づくりの取組推進 等

□ 地域の推進体制

名 称	地域しずおか花の協議会
構 成 員	県農林事務所（事務局） 市町 生産者団体 生花・園芸店 オープンガーデン開設者 花の会 等
事業内容	花育講座 花き生産振興 等 地域の実情に即した事業を実施

参考

1 現状のデータ

(1) 生産

ア 花きの産出額

- 静岡県は全国上位の花き生産県であり、ガーベラは全国1位、バラと観葉植物は全国2位の産出額である。

【都道府県別花き産出額順位】（令和6年）

順位	県名	産出額（億円）	全国シェア
1位	愛知	531	15.5%
2位	千葉	200	5.8%
3位	福岡	172	5.0%
4位	静岡	166	4.8%
5位	長野	157	4.6%
全国		3,423	100%

※ 生産農業所得統計（農林水産省）

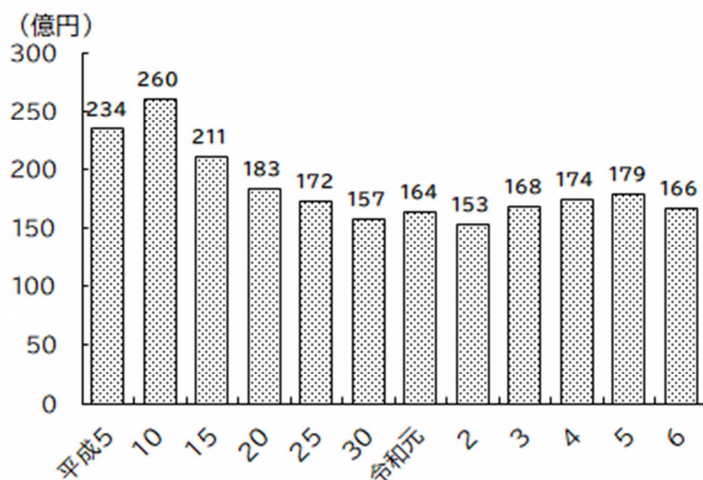
【静岡県の花き品目別全国順位】（令和6年）（ ）内は産出額 単位：億円

順位	1位	2位	3位	4位	5位
品目	ガーベラ (18)	バラ (13) 観葉植物 (24)		切葉 (3) 切枝(14) 花木類 (8)	トルコギキョウ(7)

※ 生産農業所得統計 他（農林水産省）

- 花き産出額は平成10年をピークに減少傾向にあるがここ数年は横ばいである。

【静岡県の花き産出額の推移】

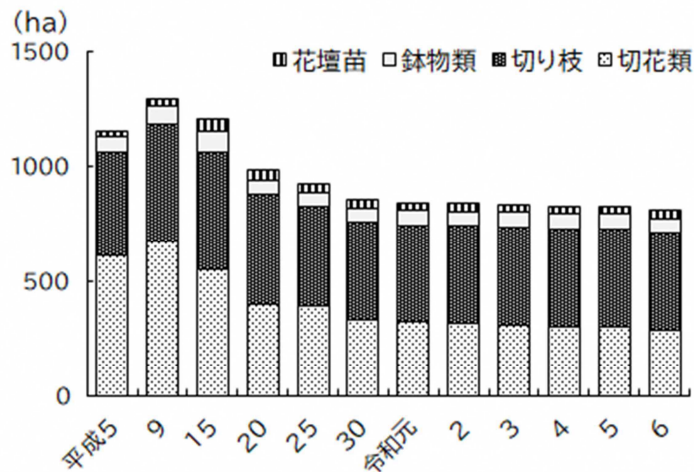


※ 生産農業所得統計（農林水産省）

イ 花きの作付面積

○ 花きの作付面積は減少傾向が続いているが、近年は横ばいで推移している。

【静岡県の花き品目別作付面積の推移】

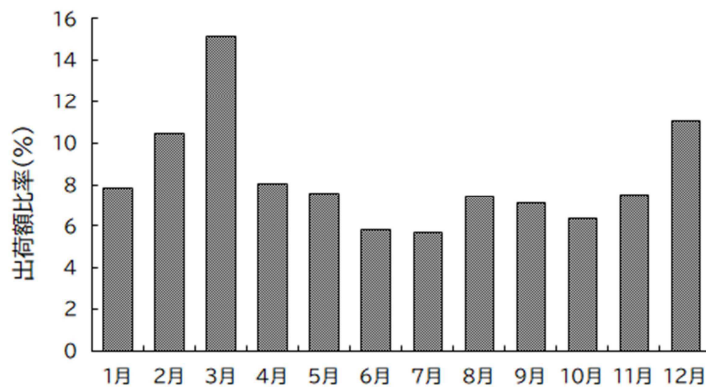


※ 農産物作付面積調査他（農林水産省）

ウ 花きの時期別出荷額比率

○ 施設栽培品目を中心に一年を通じて出荷されており、特に年末から春の出荷量が多い。

【静岡県産切り花の月別出荷額比率】（令和7年静岡経済連データ）



エ 担い手

○ 鉢物生産者を中心に、年間雇用を前提とした法人化等による大規模花き経営の展開が見られる。

・ 花き大規模経営体数：29 経営体（令和6年度）

※ 大規模経営体：①②③④の条件をすべて満たす経営体

- ① 経営が継承されていく永続的な経営体
- ② 雇用による労働力を確保している
- ③ 企業として一定以上の販売規模を持ち、成長を志向している
- ④ マーケティング戦略に基づくサービスや商品を提供している

○ 令和7年の花き生産者数は1,205経営体であり、減少が続いている。

・ 花き生産者数

年度	平成 22	27	令和2	7
経営体数	2,580	2,167	1,671	1,205

※ 農林業センサス（農林水産省）

○ 農林技術研究所や県内生産者がオリジナル品種の開発に取り組んでおり、多彩な品種を開発している。

・ 花き生産者による育種（バラ、キク、コショウラン、デンドロビウム等）

・ 静岡県農林技術研究所による育種と普及（マーガレット、キク）

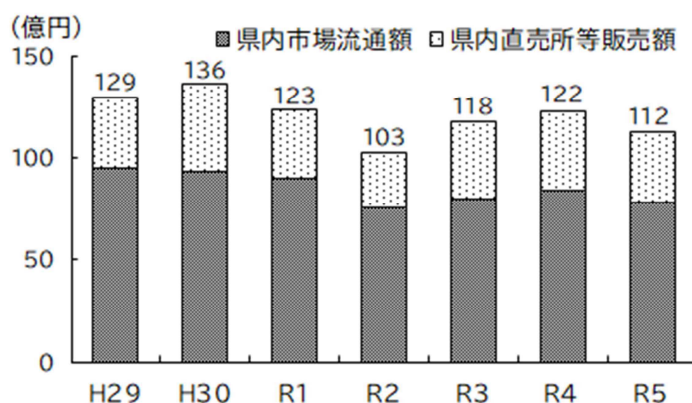
47品種（登録抹消品種を含む）（令和8年3月現在）

(2) 消費

ア 県内の花の流通

○ 静岡県内の花き市場流通額は減少傾向にある一方で、県内直売所等販売額はほぼ一定で推移している。合計額は、令和2年に新型コロナウイルス感染症の流行により減少したが、その後回復傾向にある。

【静岡県内の花き流通額の推移】



※ 卸売市場年報（県農業戦略課）、6次産業化総合調査（農林水産省）

イ 消費

○ 一世帯あたりの花きの年間支出額は、新型コロナウイルス感染症の流行後に一時的回復したが、減少傾向となっている。

【県庁所在市における切り花及び園芸用植物、園芸用品の一世帯あたり年間支出額】

(単位：円)

年度	令和 2	3	4	5	6	7
静岡市	12,150	10,055	14,259	14,369	12,017	10,368
浜松市	15,265	13,393	14,168	15,208	14,077	15,796

※ 家計調査年報（総務省統計局）（二人以上の世帯）

(3) 地域づくり

ア 地域花壇・オープンガーデンなどの活動

○ 地域の花壇づくりやオープンガーデンなどの活動が盛んで関わる人材が豊富であり、花壇コンクールの入賞者を多く輩出している。

・ ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクールの応募点数 農産振興課調べ

年度	平成 30	令和元	2	3	5
応募点数	71	82	75	195	349

※ 令和3年度から隔年開催で実施していたが、令和5年度を最後に終了。

・ オープンガーデン公開庭数（令和8年3月現在） 農産振興課調べ

年度	令和 3	4	5	6	7
地区数	6	6	6	5	5
開設数	206	199	184	163	163

※ 5地区（伊東市、富士市、静岡市、中遠地域、浜松市）

・ しずおか花のアドバイザー登録者数（令和8年3月現在） 農産振興課調べ

年度	令和 3	4	5	6	7
登録者数	104	108	102	102	108

※ 「花の都しずおかアドバイザー」は令和8年度から「しずおか花のアドバイザー」に名称変更。

・ 花の会会員数 農産振興課調べ

年度	令和 3	4	5	6	7
団体数	43	42	42	40	37
会員数	5,650	5,228	4,714	4,182	3,511

・ 全国花のまちづくりコンクール入賞点数 農産振興課調べ

年度 (回次)	令和 3 (第 31 回)	4 (第 32 回)	5 (第 33 回)	6 (第 34 回)	7 (第 35 回)
応募総数	1031	694	878	605	924
入賞数 (うち県内出品者)	105 (11)	91 (11)	62 (8)	56 (6)	88 (8)

静岡県花き振興計画
令和8年6月
静岡県経済産業部農業局農産振興課